自　己　評　価　票

【自己評価の意義・目的】

○　自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
○　サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
○　この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
Ⅰ　理念に基づく運営	22
1　理念の共有	3
2　地域との支えあい	3
3　理念を実践するための制度の理解と活用	5
4　理念を実践するための体制	7
5　人材の育成と支援	4
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ　サービスの成果に関する項目	13
合計	100

【自己評価の実施方法】

○　運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
○　「評価項目」ごとに評価をしてください
○　その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
○　少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
○　優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
○　改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
○　利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
○　評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

記入年月日	平成　21　年　10　月　28　日
法　人　名	（株）　　オーナーズ
代表者名	林　芳美
事業所番号	２７７２２０２０２０１２
サービスの種　類	指定介護予防認知症対応型共同生活介護医療連携体制加算
事業所の名　称	グループホーム　ジョイフル小路
記入者名	**金谷　英子**
所　在　地	**大阪市生野区小路東４－５－16**
電話番号	０６－６７５１－１４１９
ＦＡＸ番号	０６－６７５１－１４２０

自 己 評 価 票

（ ░░░ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営			
	1　理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく普通の暮らしが継続できるように、事業所として理念を掲げている		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月１度の定例会議、申し送りノートなどによる情報の共有など、チームケアに力を入れている		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、地域の中で普通の暮らしをするという事業所の理念を、利用契約時・運営推進会議などで説明し、理解を得るように努力している		
	2　地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	外出時に顔を合わせれば、挨拶・声かけし、利用者の町会費の付き合い・施設行事があれば、回覧版を利用させてもらい、地域の行事にも参加させてもらっている		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の、もちつき大会・花見・旅行などに進んで参加し、祭事には気持だけ寄付している		
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の全体会議、運営推進会議などで話し合ったりしながら、少しでも当施設が役立つように取り組んでいる		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・職員全員での会議で、外部評価の意義を話し合い、良い所は伸ばし、改善すべき点は反省し、職員全員でより良いホームにして行く事に努めている		
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、ご家族・利用者・地域・包括職員の意見・助言・評価を頂き職員会議で評価内容を報告・話し合い、今後のサービスに活かしている		
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	入居状況の報告・利用者の金銭面での管理・利用者が、在宅時より受けていた地域行事の継続など、地域包括支援センターと共にサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	利用者に対する、権利擁護・成年後見人制度について職員が理解し、利用者一人ひとりに対する必要性を見出し、活用できるよう、研修などにより学ぶ機会を作るように努力している	○	より多くの研修に参加するように勤務体制・費用の負担を全面的にバックアップする

（ ⬚ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
11	○　虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に係わるポスターの設置・研修による知識・職員全体での会議・普段、何気ない言葉・声かけなどにも、注意が必要である事を常に心がけるように注意している		
4　理念を実践するための体制				
12	○　契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	契約時には、利用契約書・重要事項を家族・利用者に読み上げ、不安がないように内容を十分に説明した上で、納得すれば契約に至る。解約時はご家族の解約に同意する書類をもらっている		
13	○　運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が、日々の生活の中で不満・苦情を表現できるように、職員はコミニュケーションを多く取り、利用者が何を訴えているかを、探り当て職員全員で話し合い運営に反映させるように努めている		
14	○　家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の中で必要な物品・小遣・健康状態・他の医療機関での受診・変化のある時などは、個々に電話にて連絡し、職員の異動などは、ご家族が来訪時に報告している		
15	○　運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に意見箱を設置し、ご家族の来訪時に不満・苦情の有無をそれとなく聞き出し、問題点を職員全員で話し合い対処しながら、運営に反映させている		
16	○　運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は月1度の会議に出席し、対話を行っている。職員に対し慰労の声かけと、困っている事が無いかを聞き、問題があれば解決を図っている。焼肉会・花見などの慰労会も行はれている		
17	○　柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	休日希望をノートに記載し、職員同士で調整している。施設行事・地域行事がある時は、職員の増員に心がけている。他に職員に余裕のある時は、有給を取るようにしている		
18	○　職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は、職員の働く上での健康状態・職場環境・職員同士の不満などを相談し、良い関係を築き、異動・辞職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者ダメージのないよう配慮をしている		
5　人材の育成と支援				
19	○　職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、各職員が研修を受けられるように資料などを揃え、勧めている。研修にかかる、費用・研修手当てなどを支給し、職員のスキルアップに、全力でバックアップしている		
20	○　同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設職員と研修で知り合い、お互いの施設に見学・勉強会などで知り得た情報・参考になる、資料などを持ち帰り、職員全員で考慮し、サービスの向上に努めるように取り組んでいる		

（ ⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
21	○　職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる	運営者は施設訪問時、笑顔で職員一人ひとりに話しかけ労い、手土産を持たせてくれる。職員の体調にも変化がないか気を配り、職員を交えての食事会などで、ストレス軽減に努力している		
22	○　向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員が努力している事を高く評価し、職員一人ひとりを理解・信頼している事を言葉で表現。職員全員が自分自身に、自信と向上心を持ちながら勤務してくれる事を望んでいる。運営者は施設全体の向上に努力している		

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1　相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○　初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	困った事・不安な事・本人の主訴を傾聴し、本人が納得いくまで何度も訪問し、お互いの信頼関係が生まれるように努力している		
24	○　初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめ　る努力をしている。	入所に対しての不安、現状で困っている事などをよく聴き、ご家族・利用者が求めている事を、お互い納得するまで何度でも話し合い、現状の問題を受け止め、安心して入所できるように努めている		
25	○　初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何から支援する事が最優先かを見極めながらサービスを開始する。他のサービスとの併用も視野に入れながら柔軟な対応に努めていくように努力している		
26	○　馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	職員は、利用者・家族とのコミニュケーションを多く取り、理解する事で馴染みの関係が生まれるように努力している。ご家族と相談の上、入所までのサービスを継続できるものは、入所後も続けていきながら、安心してホームで生活できるように努めている		

2　新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○　本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「介護している」と思うのではなく、縁あって「お世話させてもらっている」事をいつも念頭におき、利用者の生活暦で知り得たことを学びながら、共に歩み・支えあい、良い関係を継続させていく		
28	○　本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者・ホーム・職員にとってご家族の存在は必要不可欠であり、支えである。ホームの行事などで、嬉しそうに喜ぶ利用者の顔に、職員はご家族と共有しながら信頼関係を築けるように努めている		
29	○　本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族との生活暦の中での出来事や、問題点などを理解し、より良い関係が続くように支援している。		
30	○　馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の顔見知り・近所の方達にホームへ訪問・行事などに参加を呼びかけている。馴染みの銭湯に週１度行くようにしている		

（ ⬚ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
31	○　利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は、なるべく利用者全員にフロアーに集まってもらい、ゲーム・カラオケなどで楽しみ、利用者同士の交流を深め孤立しないように努めている		
32	○　関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅復帰・入院などで、退所されても、継続的な支援を必要とする利用者・家族に対して、今まで通りの良い関係を大切にしていくように努めている		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1　一人ひとりの把握

33	○　思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている.困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの主訴を大事にし、検討しながら、その人らしい暮らしが継続できるように努めている		
34	○　これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活暦の違い・好む好まないも十人十色、施設サービス利用に対しても、今までのサービスを踏まえたうえで、少しでも馴染みの暮らしに近づけるように努めている		
35	○　暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日一日をダラダラと過ごすのではなく、職員はその日の利用者の心身状態などを把握し、有する能力が発揮できるように、総合的な援助に努めている		

2　本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○　チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の課題の抽出・ご家族・職員での話し合いにより、皆の意見・アイデアを取り入れ、介護計画に反映するように作成している		
37	○　現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し前に変化が生じれば、本人・ご家族・関係者を交え話し合い、現状に適した計画を作成している		
38	○　個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに事細かく、本人のその時の状況・発した言葉など記録し、職員全員に申し送りをし、共有している。又、個人ケースを参考にしながら、計画の見直しに活かしている		

3　多機能性を活かした柔軟な支援

39	○　事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の好みに合わせた食事作りご家族と一緒に行く小旅行など、グループホームならではの柔軟な支援をしている		

4　本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	地域で活用できる資源を多く取り入れ、お互い協力しながら、利用者のためになるよう努力している		

（ ▒▒▒▒▒▒▒▒ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○　他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の社会福祉協議会と話し合い、銭湯などのサービスを利用している	○	銭湯での交流が地域の日帰りバス旅行の参加などにつながり、本人の楽しみになっている。これからも続けていきたい
42	○　地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で意見・助言などを頂き参考にしている。金銭管理なども利用し協働している		
43	○　かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意見を尊重し、その旨をかかりつけ医に連絡・相談し、治療方針を本人・ご家族に説明・同意を得るようにしている		
44	○　認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と心療内科との連携にて、必要に応じて受診する。受診には職員が同行し、治療方針などの説明を受ける		
45	○　看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の健康状態を把握するために、月１２回訪問してくれるので、利用者・職員も安心、訪問前に連絡があり、変化の有無を聞いてくれる。もし変化があれば、２４時間すぐに対応できる体制を取っている		
46	○　早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が余儀なく入院となった場合、安心して過ごせるように、施設職員・主治医・病院関係者との情報交換・相談・連携により早期退院できるように努めている		
47	○　重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	健康状態の悪化した時点で、施設ではご家族に延命治療の有無をたしかめ、今後の治療方針を主治医から聞き、職員全員で共有している。ご家族には主治医から病状を説明してもらい再度、延命治療の有無を確かめてもらう		
48	○　重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	重度化した場合でもご家族の意向・協力により、ホームーでの生活を望むのであれば主治医・家族・職員と話し合いのうえ、ホームで支援していく事に取り組んでいる。しかし主治医がホームでの生活にて医療・治療方針に支障をきたすと判断された場合にはその指示に従っている		
49	○　住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・ご家族の希望により、当ホームや、他へ移り住む事になる時には、ケア関係者家族・本人との話し合いにて、お互い持っている情報を交換し、少しでもダメージのないようにしている		

（ ⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１　その人らしい暮らしの支援				
（１）一人ひとりの尊重				
50	○　プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	長く築きあげた生活暦で、本人の誇りを傷つけるような言動はしない。本人に呼びかける時は、○○さんと呼ぶようにしている。職員同士ではイニシヤルにて対応している		
51	○　利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	本人の思いや希望などをさりげなく聞き出し、ゆっくりと説明し、本人が決定できるように支援している		
52	○　日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者のその日の体調・気分などを観察し、一人ひとりがゆっくりと、落ち着いた生活ができるように支援する事を心がけている		
（２）その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援				
53	○　身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った洋服をセットし、気がつきやすい所に置き声かけする。理・美容室には、本人が希望する場所へ家族・職員が同行する。		
54	○　食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの月行事・誕生会などでは利用者に何が食べたいのか希望を聞き、一緒に準備する。後片付けのときは、各自がトレーにて持ち運びをし、片付けやすくしている	○	健康状態・気分などに合わせて、個人的に外食などに連れて行っている
55	○　本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	本人が望み、健康状態に問題がなければその時の状況に合わせて楽しめるようにしている		
56	○　気持よい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして,気持ちよく排泄できるよう支援している	個人ケースに排泄の時間を記録・排泄間隔を把握し、さりげない促し・誘導にて失敗を減らし、気持良く過ごせるように支援している		
57	○　入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時の健康状態・気分などを考慮し、入浴してもらう。週１回金曜日、地域主催の銭湯の入浴会に行き、入浴・ゲームなどを楽しんでもらっている		
58	○　安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	本人が今まで使用していた寝具・道具など、馴染みのある物を使用してもらい、安心した生活の中で休息・良眠できるように支援している		
（３）その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援				
59	○　役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最初はゆっくりと簡単な事から始めその人に合った役割を見出す。散歩や買い物カラオケ・ゲームなどで、気分転換するようにしている		

（ ▒▒▒▒ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○　お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	外食や買い物時には、事前にお金を持たせて各自で払い、お釣りをもらって頂くようにしている		
61	○　日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物に出かけたり、車で外出したいと希望すれば車で出かける		
62	○　普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	最近ホーム全員で日帰り旅行を楽しみ、素敵な一日を味わいました。家族様に声かけしたところ、数名の方に参加して頂きました。こういった機会を１年に１度は作るように支援していくつもりです	○	契約病院と合同でのバス旅行を無事に楽しむ事ができました。年に１度は計画・実行していくつもりです
63	○　電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	暑中見舞い・年賀状などを書いて頂き、希望すれば電話連絡のお手伝いを支援している		
64	○　家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの訪問があれば、職員全員が気持ちよく出迎え、お茶や菓子などでもてなし、次回の来訪の声かけをしている		

（４）安心と安全を支える支援

65	○　身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者・職員全員は、身体拘束・高齢者虐待について正しく理解しており、日々のケアに努めている		
66	○　鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者･職員は表玄関の施錠で利用者の心身に伴う弊害を理解はしているが日中車の往来が激しく突然外へ飛び出し危険を及ぼす可能性が大きいために表玄関のみ施錠している。鍵のかけないケアには問題がある		
67	○　利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーを考慮し、昼夜問わず様子観察しながら、利用者一人ひとりの安全の把握に努めている		
68	○　注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲するような物品は、利用者の目の届かない処へ、歩行・移動時には障がいのないように、環境整備に気を付けている		
69	○　事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は研修・救命講習・消防訓練などで知り得た情報・経験を踏まえ、日々事故防止のケアに取り組んでいる		
70	○　急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	かかりつけ医・看護師からの説明による初期対応・消防署員からの救命講習などを、定期的に行っている		

（ ▒▒▒▒▒▒▒▒▒▒ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○　災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回の消防訓練や運営推進会議などで避難の方法などを助言して頂き、地域の方達には利用者の状況を説明し、避難場所の情報など協力を得られるように働きかけている		
72	○　リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	本人・ご家族の希望を叶えるには、どんなリスクが生じるかを見つけ出し説明しながら、利用者一人ひとりが抑圧感のない暮らしを継続する為の、対応策を家族と話あっている		

（５）その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援

73	○　体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチエック・日頃の観察・入浴時による身体のチエック・少しでも異変があれば速やかに職員に申し送り、情報を共有し、かかりつけ医・看護師に報告するような対応に結び付けている		
74	○　服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬を個人ケースに付加し、職員にわかり易くしている。又、２週間に一度、薬局より薬剤師が訪問し、利用者、職員に現在、使用中の薬や副作用などの説明をしてもらっている。		
75	○　便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢になると便秘になり易く、身体にも影響を及ぼすため、予防として毎日のラジオ体操・散歩などで体を動かし、繊維質の多い食品や水分補給などに努めている		
76	○　口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じ、促しや誘導しながら口腔介助している。週１回の訪問歯科による治療・口腔チエック・義歯の調整など本人の力に合わせた支援をしている		
77	○　栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週１回、訪問栄養管理士の指導を受け、食事量・カロリー・水分量の記録をチエック、その時の状態により、捕食・おやつなどを管理栄養士と相談・助言を受けながら支援している		
78	○　感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している （インフルエンザ疥癬,肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	職員は感染症に対しての知識や情報を研修などで得、感染の予防や職員自信の健康管理に気をつけ、媒介による二次感染に注意する。又、毎日、塩素系の洗剤を薄めて拭き掃除をしている		
79	○　食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した台所用品は、熱湯消毒・塩素系の洗剤で消毒。食材は使い切りにし残り物はそのつど捨てている		

２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

（１）居心地のよい環境づくり

80	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物・玄関回りには、グループホームと分かるような看板などはなく、普通のマンションの出入り口と変わらない。誰もが安心して気軽に出入りできるような工夫がしてある		

（　　部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○　居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下は明るくし、フロアーには季節がわかるような、利用者自身が作ったぬり絵のカレンダーを飾っている。浴室・トイレなどは音・光により不快にならないようにしている		
82	○　共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が囲碁の碁石で５目並べをしたり、カラオケが好きな人は音楽に合わせて一緒に歌ったりと、本人の好きな事を思い思い自由に過ごせる居場所を工夫している		
83	○　居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談しながら、今まで使っていた道具・好みの物などを持ってきて頂き、自宅の延長として本人が居心地の良い生活ができるように努めている		
84	○　換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	一日に何度かドアを全開し、空気の入れ替え・フロアー・居室の換気扇をつけている。温度調節も利用者の状況に応じてこまめにしている		

（２）本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○　身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	壁・トイレには手すりを設置し、歩行・車いす・歩行器などでも移動しやすいように、廊下・トイレ内を広くし、本人の身体機能を最大限に活用できるように工夫している		
86	○　わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの持っている力を活かせるように、その人のわかる力を見極め、混乱失敗を防ぐ環境を作りながら、ゆっくりと自立できるように工夫している		
87	○　建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りにはテラス・花壇があり、季節ごとの花を植えては水まきで、花の成長を観察し喜んでいる。テラスでは、お茶を飲んだり、弁当やバーベキューなどで楽しんでもらっている		

Ⅴ　サービスの成果に関する項目			
項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の ②利用者の２／３くらいの ③利用者の１／３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができている。	○	①ほぼすべての家族と ②家族の２／３くらいと ③家族の１／３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に１回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しづつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２／３くらいが ③職員の１／３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族等の２／３くらいが ③家族等の１／３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい）

私にとって、この施設は生き甲斐であり、全部です。これからも皆から愛される施設を目指しています。